



図書館だより

11月号

令和5年11月24日
横浜市立山田小学校
司書教諭：斎藤裕美
学校司書：村山浩子

★毎月23日は市民読書の日。図書館だよりはその前後に発行しています。★

ミステリーバッグ！好評のうちにラスト一週です

11月21日までのミステリーバッグかしたし冊数と学年

1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
22冊	20冊	18冊	22冊	10冊	11冊	104冊

約50冊の本を用意して11月1日からはじまった図書委員会の読書月間イベント「ミステリーバッグ」は来週木曜でおわります。

夏休み前から本を選んで紹介文を書き、当番の合間にせつせとバッグをつくり、いっしょうけんめい準備してきた図書委員も、たくさんの方が楽しそうにバッグを選んでいるすがたをみて、うれしそうでした。

そろそろバッグは材料がなくなってきているので、ほかの形のミステリーバッグになるかもしれませんが、イベント終了まで本は用意するので、ぜひ図書館をのぞいてみてください。



図書館利用状況 10月23日～11月21日(21日間)

来館者(休み時間) 842人 貸し出し数(授業中含む) 743冊【1日平均 40人/35.4冊】

もう一つの読書月間イベント

「あるかしら図書館2023」図書館前ろうかひっさい開催中

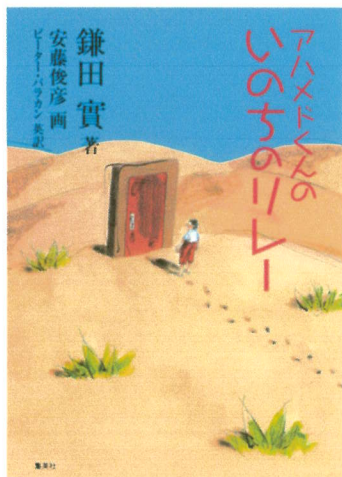


7月にPTA広報で「先生方が子どもたちのところに読んで心のこった本」が先生・職員紹介とともにのっていました。山田小図書館にもある本が多く、みなさんにも見てもらいたくて館内の本の場所と、先生がたのコメントをそえてろうかにはっています。古い本でもけっこう都筑図書館にいけばあることがわかったのも発見でした。

近くにきた時に時間があれば見てほしい、そして本を読んで感想をきかせてくれるとうれしいです。

今月のおすすめの本

『アハメドくんのいのちのリレー』 集英社



鎌田 實 著 安藤俊彦 画
ピーター・バカラン英訳
集英社

『世界はくきかけを待っている。暴力や憎しみや悲しみの連鎖をとめる、くきかけを待っている。』（作者あとがきより）

銃でうたれて亡くなったパレスチナの12歳の少年アハメド君。お父さんは彼の心臓などの臓器を病気に苦しむ人に移植する決心をしました。でも相手を選ぶことはできません。たとえそれが息子を死なせたイスラエルの人であっても…お父さんは言いました。「大切な人やものをうばわれたとき、その相手に報復すればにくしみの連鎖にまきこまれてしまう。武器を手に戦うことばかりが戦いではありません。戦い方はいろいろあるんです」

アハメド君の心臓をもらって命が助かったイスラエルの少女サマハちゃんの夢は医師になり、「たくさん命を救いたい。イスラエルとパレスチナの平和のために働きたい」ということです。

10年もまえに出版された絵本ですが胸にひびき、いのちのような気持ちで読みました。ぜひ多くの人に読んでもらいたいです。

こんな時だからこそ知っておきたい

命を守るために力をつくした人の本を紹介します。

「杉原千畝物語 命のビザをありがとう」

杉原幸子・杉原弘樹 著 金の星社

第二次世界大戦のさなか、ヨーロッパの多くのユダヤ人が迫害を受け、終戦までに何百万人もの人が亡くなりました。逃げようとしても戦いの中で安全な国へ逃げるルートはいくつもあります。その時、リトアニアの日本領事館で働いていた外交官の杉原千畝は、命の危機にあったユダヤ人を救うため、日本通過のビザ（日本に入国してもよいという書類）を発行する許可を国にもとめました。当時、東へむかい日本からアメリカ大陸などへ渡るのがもっとも安全な道だったからです。ところが日本政府はビザの発行を認めません。悩んだ千畝は、国ではなく心の命令にしたがってビザを発行し、戦争の激化で街を離れる直前まで書類を書き続けたそうです。ビザによって、命を助けられたユダヤ人は6000人ともいわれています。



「ストーリーで読む伝記 緒方貞子」 小手鞠い 著 佐竹美保 絵 岩波書店

令和元年に亡くなった、日本人初の国連難民高等弁務官で世界で最も尊敬される日本女性といわれた方です。日本での知名度が低いのが残念で昨年伝記が出るとすぐに買いました。どれだけ戦争などで故郷を追われた難民を助けるために先頭に立って働き、苦しむ人によりそったか…アフリカの難民キャンプに「サダコオガタ」と名付けられた赤ちゃんが何人もいることからわかります。

残念ですが
著作権の
関係で表紙
の掲載は
できません